



報道関係者各位

2016年5月20日

ハンファQセルズジャパン株式会社

ハンファ Q セルズ 2016 年度 第 1 四半期決算発表 営業利益が四半期ベースで過去最高を更新

- モジュールの総出荷量は当初計画を上回る 912MW（メガワット）を達成
- 2015 年度第 2 四半期以降の 4 期連続黒字を記録

ハンファ Q セルズ（CEO：ナム・ソンウ、米ナスダック：HQCL、以下、「Q セルズ」）は、19 日（アメリカ現地時間）、2016 年度第 1 四半期の決算を発表いたしましたのでお知らせいたします。

2016 年度第 1 四半期（1-3 月）、Qセルズの売上高は 514.9 百万ドルで前年同期比 154%の伸びとなりました。さらに営業利益と当期純利益も大きく伸長、営業利益は 56.7 百万ドル（営業利益率は 11.0%）となり、四半期ベースで過去最高を更新、当期純利益も 27.5 百万ドル（当期純利益率 5.3%）と堅調に推移しました。今期業績の主な要因は、モジュールの総出荷量が当初の計画（850-900MW）を上回り 912MW を達成したこと、製造コスト低減への継続的な取り組みが功を奏したことによるものです。

Qセルズは、2015 年 2 月のハンファ Q セルズとハンファソーラーワン合併後、2015 年度第 2 四半期（4-6 月）には営業利益が 1 百万ドルとなり、早期に黒字転換を果たし、その後も合併を通じたシナジー効果による成長路線が継続しています。2016 年度においても、技術と品質の先進性を向上させ、当社製品に対するお客様からの期待に応えるべく戦略的な経営を推し進めています。

市場でのさらなるシェア拡大に向け Q セルズでは、生産コスト構造の最適化に注力するとともに、EU 諸国やアメリカ・日本などの先進国市場に加え、インドなどの新興市場における現地ニーズに対応した製品を提供可能とする生産体制を強化しています。特に、韓国とマレーシアの工場からの Q.ANTUM セル製品の市場投入は、主要市場における当社のシェア拡大に貢献することが期待されます。

また今期、日本国内においても業績は順調に推移し当初の計画を達成しました。Q セルズにおいて、日本は今後もアメリカに次ぐ主要な市場であり、今期の業績にも大きく貢献しています。

わたしたちは、自社の成長とともに、どの地域においても優れた製品を生産・販売できる体制を整備することで、世界の太陽光発電市場の発展に貢献して参ります。

報道関係お問い合わせ先

ハンファQセルズジャパン株式会社 広報担当：小林・篠崎 TEL 03-5441-5928 E-mail info@hqj.co.jp



【ハンファQセルズについて】

ハンファグループ内の太陽光関連企業 2 社が合併され、2015 年 2 月にハンファ Q セルズ（NASDAQ:HQCL）となる。“Engineered in Germany”のブランドコンセプトのもと、ドイツ R&D 本社から、先進的な技術や革新的な研究開発をグローバルに展開するとともに、ハンファグループのネットワークを活かし、欧州、北米、アジア、南米、アフリカ、中東諸国でビジネスを展開している。生産施設はマレーシア、中国、韓国、一部ドイツに保有し、セル生産能力は 5.2GW で世界トップクラス（2016 年 3 月現在）。太陽光セル・モジュール・システムの開発・生産・販売、発電所建設および EPC（設計・調達・建設）事業など太陽光ビジネスの全ての分野でソリューションを提供している。

URL: <https://www.q-cells.com>

【ハンファQセルズジャパン株式会社について】

1984 年に韓国最大手企業であるハンファグループの日本法人として設立。2014 年 3 月に設立 30 周年を迎えた。太陽光発電関連事業（太陽光モジュール輸入販売、IPP 事業）をはじめ化学品、鉄工、機械・設備、自動車部品、IT 関連機器等、多分野にわたる基幹産業のアジア諸国間での輸出入業務と日本市場での販売事業を展開している。2011 年より日本の太陽光事業に参入し、2016 年 1 月現在で日本向けの出荷量累計 2GW、住宅設置数 10,000 棟を突破した。

URL: <http://www.q-cells.jp/>

報道関係お問い合わせ先

ハンファQセルズジャパン株式会社 広報担当：小林・篠崎 TEL 03-5441-5928 E-mail info@hqj.co.jp